近世

東照宮への寄進物の次第

（『因府歴年大雑集』第一巻　鳥取県立博物館蔵）

東照宮への寄進物の次第

一御寄進物之次第
一御宝前石燈籠両器　松平新五郎
一同金燈籠八器　松平石見守
一同石御手水鉢　荒尾但馬
一同鷹画　荒尾志摩
一同石燈籠　両器ヅヽ
　但馬息　志摩息
　荒尾大和　荒尾主計　和田飛騨
　乾長十郎　津田筑後　鵜殿大隅
一同　一器ツヽ
　池田日向　池田大蔵　池田掃部
　（太司馬元祖）
　池田図書　福田丹波　菅長太郎
　矢野兵庫　安養寺大学
　以上
一鳥居之額　（青蓮院尊純親王御筆）
　池田図書　福田丹波　菅長太郎
　矢野兵庫　安養寺大学
　以上
一拝殿之歌仙　歌は尊純親王御筆　画は法眼守信筆
　慶安四年辛卯
　正月珠日
　武州
　東叡山常徳院光憲
　記レ之。

池田光仲肖像（鳥取県立博物館蔵）★

鳥取東照宮の社殿（鳥取市上町）

解説

1616（元和2）年、江戸幕府初代将軍の徳川家康が亡くなった。家康は、「東照大権現」の神号を与えられ、徳川秀忠・徳川家光により、日光に東照宮が造営された。1636（寛永13）年完成したことで、幕府の権威の安定化とともに、人々の信仰を集めた。鳥取でも、1648（慶安元）年に藩主としてお国入りした池田光仲が幕府に東照宮の勧請を願い出た（『新鳥取県史資料編　近世6　因府歴年大雑集』1-44）。幕府の老中（首座）であった松平伊豆守（松平信綱）らが連名し許可を発給している。『因府歴年大雑集』には、この資料のほか、造営（1-50）、遷宮*（1-53）、祭礼（1-58）などに関する資料も記録されている。

本資料は東照宮への寄進物として、参道に並石灯籠や手水鉢、現存している『三十六歌仙額*』（県指定保護文化財）に関する記載がみられる。これは、寛永期の文化を代表する幕府の御用絵師、狩野探幽の作品である。東照宮もまた霊廟建築として権現造が用いられており、鳥取も文化の影響を受けていたことがわかる。鳥取藩と幕府のつながりを示す重要な文化財である。

三十六歌仙額（在原業平）（鳥取東照宮蔵）★

遷宮：ご神体を本殿に移すこと。
三十六歌仙：平安時代の和歌の名人36人の総称。

（担当：花原慧史）

参考資料

- 鳥取県『新鳥取県史資料編　近世６　因府歴年大雑集』29頁（2019年）
- 鳥取市歴史博物館『江戸開府400年東照宮展　前期　東照宮の誕生―神になる徳川家康―』（2003年）

★の写真は教育活動以外での無断利用や転載を禁止します。